

## はじめに

臨床栄養学の歴史は「いかに人々の栄養状態を改善するか」に始まり、その後飽食の時代を迎えると、生活習慣病の予防・改善に貢献してきた。そして、超高齢社会が到来した現代の日本では、健康長寿社会の実現に向け、また新たな臨床栄養学の知識が必要とされている。このように臨床栄養学は、時代のニーズが変わっても、人々の生活の質を高めるために欠かすことのできない学問である。

人々の健康を支援する専門職は、いつの時代にあっても基礎知識を身に付け、根拠をもって適切に看護を実践できる能力が求められる。本書では「臨床栄養学の基礎知識」として第1章にまとめ、栄養学の知識と食生活や栄養指導の場面を関連付けながら学べるように工夫した。第2章では、2025年に改定された「日本人の食事摂取基準（2025年版）」について、学生が学ぶべき要点を理解しやすいように整理した。第3章以降は、対象者の健康の段階に合わせて、得た知識を実際にどのように適用していくのかをより具体的に述べた。健康の維持増進に関わる内容を第3章「日常生活と栄養」に、健康障害の治療に関わる内容を第4章「療養生活と栄養」、第5章「疾患別の栄養食事療法」にまとめた。第6章では、「栄養食事指導の実際」について説明し、学生が知識を積み上げ、統合しながら学べるように、学習段階に沿って項目を配置するように工夫している。

初版の刊行から20年が経過し、臨床栄養学の歩みとともに本書も進化を続けてきた。第7版となる今回の改訂では、各分野の専門家に新しく執筆者として加わっていただいた。最新の臨床栄養学の知識の中から学生にとって必要な内容を精選し、また、図解ページを新設することで、より理解が進むテキストにブラッシュアップすることができたと考えている。本書で学習する主な対象は看護学生であるが、看護以外の医療職を目指す学生にも十分に役立てていただけるものと思う。広く、臨床栄養学を学ぶ人にとってのテキストとして利用されることを願うものである。

終わりに、本書の執筆に当たりご助言およびご協力をいただいた方々に深く感謝いたします。

編者を代表して 關戸 啓子

### ■ 「日本人の食事摂取基準」について

本書は、「日本人の食事摂取基準（2025年版）」策定検討会報告書（厚生労働省2024年10月11日発表）に準じて制作しています。同内容に追加情報がある場合は、弊社Webサイトに「更新情報」を掲載いたします。

また、巻末の資料①に「日本人の食事摂取基準（2025年版）」より、エネルギーおよび各栄養素の摂取量の基準（数値）を抜粋してまとめました。

「日本人の食事摂取基準（2025年版）」策定検討会報告書全文

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_44138.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html)、（参照2025-09-14）

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進④「臨床栄養学」更新情報

[https://www.medica.co.jp/n-graphicus/textbook/detail\\_parent/55](https://www.medica.co.jp/n-graphicus/textbook/detail_parent/55)